

取扱資産の概要説明書

概要書更新年月日	2025年6月29日	2025年6月30日	2025年6月3日	2025年6月29日	2025年7月2日	2025年8月27日
日本語の名称	ビットコイン	イーサリアム	エクスペアールビー	ビットコインキャッシュ	ライトコイン	ترون
現地語の名称	Bitcoin	Ethereum	XRP	Bitcoin Cash	Litecoin	TRON
呼称（日本語の名称と同じ場合は一表記）	—	—	—	—	—	—
ティッカーコード（シンガポ）	BTC, XBT	ETH	XRP	BCH, BCC	LTC	TRX
発行開始（年、月、日）	2009年1月3日	2015年7月30日	2012年9月（Ripple Consensus Ledgerの開始日）	2017年8月1日	2011年10月	2017年8月（ERC20）
時価総額（ドル基準、例：\$1,000,000）	\$2,159,253,815,589.79	\$300,156,161,035	\$134,094,880,189	\$9,798,394,273.42	\$6,359,084,810	\$95,930,000,000
時価総額（円基準、例：¥100,000,000）	¥311,396,261,244.103	¥43,372,565,269.590	¥18,594,083,424.151	¥1,438,292,094.117	¥908,185,415.339	¥658,000,000,000
主な利用目的	送金、決済、投資	送金、決済、スマートコントラクト	送付（送金）、決済、投資	送金、決済、投資	送金、決済、投資	送金、決済、投資、スマートコントラクト、ステーキング
利用制限の有無	なし	なし	なし	なし	なし	SRに投票するにはTRXのステーキングが必要なため、投票している間はTRXがロックされることになる。アンステークは可能だが、解除後14日間の保留期間を経なければならない。
海外流通の有無	あり	あり	あり	あり	あり	あり
国内流通の有無	あり	あり	あり	あり	あり	あり
店舗等の利用制限の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし
利用制限を行う者の属性	—	—	—	—	—	なし
利用制限の内容	—	—	—	—	—	なし
一般的な性格	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産 ・分散型アプリケーションが動作する実行環境の役割を果たす特徴を持つ	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産 ・XRPはRipple Consensus Ledger上での取引における取引手数料として機能している。ネットワークへの攻撃が起こった時には手数料が自動的に釣り上げられるため、攻撃を未然に防げる仕組みとなっている。XRPは3〜5秒ごとにファイナリティをもって決済を行うことができ、1秒につき1,500の取引を決済できるスケラビリティを有する構造となっている。	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産 分散型アプリケーションが動作する実行環境の役割を果たす特徴を持つ。
法的性格（資金決済法第2条第14項第1号、第2号の別：第1号）	第1号	第1号	第1号	第1号	第1号	第1号
2号の場合：相互に交換可能な1号暗号資産の名称	—	—	—	—	—	なし
発行暗号資産に対する資産（支払準備資産）の有無および名称	なし	なし	なし	なし	なし	なし
発行者に対する保有者の支払請求権（買取請求権）	—	—	—	—	—	なし
支払請求（買取請求）による受渡資産	—	—	—	—	—	なし
発行者が保有者に付与するその他の権利	—	—	—	—	—	なし
発行者に対して保有者が負う義務	—	—	—	—	—	なし
価値の決定	保有者間の自由売買による	保有者間の自由売買による	保有者間の自由売買による	保有者間の自由売買による	保有者間の自由売買による	保有者間の自由売買による
交換（売買）の制限	—	—	—	—	—	なし
価値移転、保有情報を記録する電子情報処理組織の形態	パブリック型ブロックチェーン	パブリック型ブロックチェーン	パブリック型ブロックチェーン	パブリック型ブロックチェーン	パブリック型ブロックチェーン	パブリック型ブロックチェーン
保有・移転記録台帳の公開、非公開の別	公開	公開	公開	公開	公開	公開
保有・移転記録の秘匿性	ハッシュ関数（SHA-256、RIPEMD-160）、楕円曲線公開鍵暗号、シニョア署名等による暗号化処理を施しデータを記録	公開鍵暗号の暗号化処理を施しデータを記録 ・Multi-sign機能によって高度のセキュリティを可能としている	ハッシュ関数（SHA-256、RIPEMD-160）、楕円曲線公開鍵暗号の暗号化処理を施しデータを記録 ・Multi-sign機能によって高度のセキュリティを可能としている	ハッシュ関数（SHA-256、RIPEMD-160）、楕円曲線公開鍵暗号の暗号化処理を施しデータを記録 Scriptアルゴリズムを用いたブルーフォーク	ハッシュ関数（SHA-256、RIPEMD-160）、楕円曲線公開鍵暗号の暗号化処理を施しデータを記録	ハッシュ関数（SHA-256、RIPEMD-160）、楕円曲線公開鍵暗号の暗号化処理を施しデータを記録
利用者の真正性の確認	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記録する。	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記録する。	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記録する。	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記録する。	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記録する。	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記録する。
価値移転記録の信頼性確保の仕組み	Proof of work コンセンサス・アルゴリズム（分散台帳内の不正取引を排除するために、記録者全員が合意する必要があるが、その合意形成方式）の一つであり、一定の計算量を実現したことが確認できた記録者を管理者と認めると分散台帳内の新規取引を記録者全員が承認する方法	Proof of Stake コンセンサス・アルゴリズム（分散台帳内の不正取引を排除するために、記録者全員が合意する必要があるが、その合意形成方式）の一つであり、保有している基礎暗号資産の量が多いほどブロック生成（承認）の成功確率が上昇する承認方式。	Proof of work コンセンサス・アルゴリズム（分散台帳内の不正取引を排除するために、記録者全員が合意する必要があるが、その合意形成方式）の一つであり、そのときのナンスのターゲット以下のブロックハッシュであるブロックを各自のノードが任意に取り込み、最も計算量の多いチェーンを正当と見なす。	Proof of work Scriptアルゴリズムを用いたブルーフォークの仕組みにより、Litecoinブロックチェーンの維持管理に参加する者が、ブロック生成に必要な、およそ2分30秒（150秒）間隔で発見可能な難易度に調整され、かつ完全に確率的で計算コストの掛かるナンス（nonce）を見つけ、Litecoinネットワークに対し伝達することをもって、維持管理参加者が指定するアドレスに対してプロトコルから付与される。	Delegated Proof-of-Stake Consensus (DPoS) コンセンサスアルゴリズム。 Proof of work Scriptアルゴリズムを用いたブルーフォークの仕組みにより、高レベルのスケラビリティを制約することによって、高いレベルのスケラビリティを提供することを目指すものであり、固定数のブロック生成者が持ち回り（ラウンドロビン）でブロック生成を行う。このブロック生成の選出に際しては、ユーザーがTRXをロックすることで比例した票を得ることができ、それを用いた投票を通じてブロック生成者が選出される。得票数の上位27アカウントがブロックの作成者（取引の記録者）となる。このブロック作成者はSR（スーパー代表）と呼ばれている。SRは6時間毎に選挙で選ばれることから、自浄作用により不安定なブロック作成者は排除される仕組みとなっている。	
誕生時に技術的なベースとなったコインの有無とその名称（アルトコインのみ）	—	—	—	BTC	BTC	有り（ビットコイン、イーサリアム）
取引単位の呼称	1 BTC = 1,000 mBTC m：ミリ μ：マイクロ 1 μBTC = 1 bits bits：ビット 1 bits = 100 satoshi	finney=0.001ETH szabo=0.000001ETH wei=0.000000000000000000000001ETH	1 XRP = 1,000,000 drop	1 BCH = 1,000m BCH m：ミリ μ：マイクロ 1 μ BCH = 1bits bits：ビット 1 bits = 100satoshi	1 LTC = 1,000m LTC m：ミリ μ：マイクロ 1 μ LTC = 1 bits bits：ビット 1 bits = 100 satoshi	1 TRX = 1,000m TRX m：ミリ μ：マイクロ sun：サン
保有・移転記録の最低単位	1 satoshi (= 0.00000001 BTC)	1wei (= 0.000000000000000001 ETH)	1 drop (= 0.000001 XRP)	1 satoshi (= 0.00000001 BCH)	1 satoshi (= 0.00000001 LTC)	1sun (= 0.000001 TRX)
交換可能な通貨又は暗号資産	全て可	全て可	全て可	全て可	全て可	全て可
交換制限	—	—	—	—	—	なし
制限内容	—	—	—	—	—	なし
交換市場の有無	あり	あり	あり	あり	あり	あり
価値が変動する資産等の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし
価値変動する資産等の名称	—	—	—	—	—	なし
価値変動する資産等の内容	—	—	—	—	—	なし
価値変動する資産との交換の可否	—	—	—	—	—	なし
価値変動する資産との交換比率	—	—	—	—	—	なし
価値変動する資産との交換条件	—	—	—	—	—	なし
その他の付加価値（サービス）の有無	なし	あり	あり	なし	なし	あり
付加価値（サービス）の内容	—	Ethereumネットワーク上でスマートコントラクトの記録と実行	金融機関の国際送金において流動性確保するためのブリッジ通貨として使われる。Ripple Labs Inc.とR3 LLCが共同で行い、12の金融機関が参加した実証試験ではXRPを使用することで送金コストが60%低減できることが実証された。	—	—	スマートコントラクトの記録と実行

取扱暗号資産の概要説明書

概要書更新年月日		2025年6月29日	2025年6月30日	2025年6月3日	2025年6月29日	2025年7月2日	2025年8月27日
日本語の名称		ビットコイン	イーサリアム	エクスタアルビー	ビットコインキャッシュ	ライトコイン	ترون
「付加価値」	過去3年間の付加価値（サービス）の提供状況	-	安定してサービスが続いている	<ul style="list-style-type: none"> 上記の通り、2016年に金融機関による実証試験が行われた マネーグラム社がXRPを利用し米国とメキシコ間でODLを利用した国際送金を初めて行っている FlashFXはフィリピンへの支払いで正式にODLを導入した(AUD/PHP) 2023年4月、Ripple Labs Inc.は金融機関向けに暗号資産の売買を簡素化することを目的とした新サービス「Liquidity Hub」を提供。国際送金以外でも、基盤のXRPLのユースケースとして、24年3月には、XRPLのメインネットに「AMM（自動マーケットメイカー）」がローンチされたことを発表。AMMの名称は「XLS-30」で、これはXRPL上のネイティブのDEX（分散型取引所）として機能し、ユーザーがXRP流動性提供の対価として報酬を得ることができる。 https://dev.to/ripplexdev/xls-30-live-on-mainnet-amm-integration-on-xrp-ledger-is-here-4ac4 2025年5月22日に米国初のXRP先物ETFが「XRPI」のティッカーシンボルでナスダックにて取引開始 (https://coinpost.jp/?p=619764) 	-	-	安定してサービスが続いている

取扱暗号資産の概要説明書

概要書更新年月日	2025年6月29日	2025年6月30日	2025年6月3日	2025年6月29日	2025年7月2日	2025年8月27日
日本語の名称	ビットコイン	イーサリアム	エクスマールビー	ビットコインキャッシュ	ライトコイン	ترون
発行者	—	あり	—	—	—	あり
発行主体の名称	プログラムによる自動発行	Ethereum Foundation	プログラムによる自動発行	プログラムによる自動発行	プログラムによる自動発行	2021年末にTRON Foudationが解散されたことと公式に発表され、現在はTron DAOとして運営している。
発行主体の所在地	—	スイス連邦州	—	—	—	登記上の所在地: British Virginia
発行主体の属性等	—	次世代の分散型アプリケーションの開発	—	—	—	主な運営拠点: 香港 DAO (分散型自律組織)
発行主体概要	不特定の保有・移転管理台帳記録者による発行プログラムの集団・共有管理	不特定の保有・移転管理台帳記録者による発行プログラムの集団・共有管理	不特定の保有・移転管理台帳記録者による発行プログラムの集団・共有管理	不特定の保有・移転管理台帳記録者による発行プログラムの集団・共有管理	不特定の保有・移転管理台帳記録者による発行プログラムの集団・共有管理	プログラムの開発及びネットワークの維持を目的としている団体
発行暗号資産の信用力に関する説明	多数の記録者による多数決をもって移転記録が認証される仕組み ブロックチェーンによる保有・移転管理台帳による記録管理と重層化した暗号化技術による記録の保全能力 保有・移転管理台帳の公開 暗号化技術による保有者個人情報の秘匿性	多数の記録者による多数決をもって移転記録が認証される仕組み ブロックチェーンによる保有・移転管理台帳による記録管理と重層化した暗号化技術による記録の保全能力 保有・移転管理台帳の公開 暗号化技術による保有者個人情報の秘匿性	XRPはオープンなネットワーク上で固有のコンセンサスアルゴリズムによって取引が承認され、暗号化技術による堅牢なセキュリティ構造を有する。取引が承認されるためには80%以上の認証済み法人バリデーターが合意をする必要があり、承認された取引はグローバルに共有されたパブリックな台帳に記録され、改ざん不可能となる。 XRPは国際送金の法人向けユースケースをサポートする機能を有したデジタルアセットであり、銀行によって直接保管され使用される実証試験が行われた唯一の独立型暗号資産である。 XRPはネットワーク開始以降2900万回台帳が更新されており、2016年には一度もダウンタイムは発生しておらず、強固なネットワークにより支えられている。	—	—	投票によって選出された27のSRによって、移転記録が認証される仕組みである。 ・ブロックチェーンによる保有・移転管理台帳による記録管理と重層化した暗号化技術による記録の保全能力 ・ブロックチェーンによる保有・移転管理台帳による記録管理と重層化した暗号化技術による記録の保全能力 ・保有・移転管理台帳の公開 ・暗号化技術による保有者個人情報の秘匿性
発行方法	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産	初期発行と、分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償としてプログラムにより自動発行	2012年のネットワーク発足時に全て発行済み	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産	初期発行と、分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産
発行可能数	20,999,999,9769 BTC	未定	100,000,000,000 XRP	20,999,999,9769 BCH	84,000,000 LTC	上限なし
発行可能数の変更可否	可	不可	不可 (全量発行済みのため追加発行無し)	可	可	可
変更方法	発行プログラムの変更	—	Ripple Consensus LedgerのP2Pサーバー向けソフトウェアであるrippledのプログラム変更 (現時点では発行するプログラム自体が存在しないので、新規に作成する必要がある)	発行プログラムの変更	発行プログラムの変更	TRONACAN上でSRが発行可能数の変更を提案し、その提案に対して2/3以上のSRの同意を得られた場合に発行可能数を変更される。
変更の制約条件	分散型保有・移転管理台帳の記録者の95%以上の同意及び記録者によるプログラム修正の実施	—	・80%以上のバリデーターが合意しなければならない ・合意後に、プログラムの修正を実施する必要がある	分散型保有・移転管理台帳の記録者の95%以上の同意及び記録者によるプログラム修正の実施	—	SRの2/3以上の賛成を得ることが必要となる。
発行済み数量	19,885,425 BTC	120,717,564.3ETH	100,000,000,000 XRP	19,890,631.25 BCH	75934526.98LTC	94,889,126,662TRX
今後の発行予定または発行条件	・1ブロックを更新するごとに3.125 BTCを新規発行している ・210,000ブロックの更新を終えるごとに1ブロック更新による新規発行数が半減する仕組みとなっている ・2025年2月25日20:20時点でのブロック数:885,238個 (データ取得元) https://www.blockchain.com/explorer およそ10分に1ブロックを更新しており、日本時間2024年4月20日に半減期を迎え1ブロック更新当たり新規発行数が6.25BTCから3.125BTCとなっている	2025年5月時点では、ステーキング報酬として1日当たりおよそ2,500 ETHが新規に発行されている。	XRPは2012年に全量が発行済みであり、今後の追加発行予定はない。	—	・採掘者は1ブロック発掘するごとに6.25 LTCが与えられる ・この数は約4年ごとに半減する (840,000ブロックごと) 1回目: 2015年8月26日、2回目: 2019年8月5日、3回目: 2023年8月2日 ・Litecoinネットワークでは、Bitcoinのおよそ4倍の量の暗号資産、約840,000,000枚のLitecoinが生成される事になる	候補者報酬: 127候補者は6時間ごとに1度選出され、115,200TRXが各候補者が投票された投票数に応じて報酬として分配される際に発行される。 SR報酬: 3秒ごとに1つのブロックを生成した際の報酬分(32TRX)として支払われる際に発行される。
過去3年間の発行状況	保有・移転管理台帳の管理者に対し、以下の数量を発行 2022年1月1日～2022年12月31日 332,000 BTC 2023年1月1日～2023年12月31日 336,875 BTC 2024年1月1日～2024年12月31日 219,670 BTC (データ取得元) https://www.blockchain.com/explorer/charts/total-bitcoins	・2022年5月時点では発行済量が119,115,014であり、2025年5月20日時点では120,727,124へ増えた。 ・2025年5月時点では、ステーキング報酬として1日当たりおよそ2,500 ETHが新規に発行されているが、手数料の一部騰起による減少があるため、純増はおよそ1日当たり0～2,500 ETHとなっている。	— (2012年に全て発行済)	—	—	Netで-6,669,456,929TRX
過去3年間の発行理由	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行	2022年以降、EthereumはPoS移行後もバリデーター報酬による新規発行が鈍っており、L2拡大によるL1手数料減少でバーン量が伸び悩み、結果として供給は純増傾向にある。	ネットワークを攻撃者から守るためのメカニズムとして手数料を課し、その手数料分のXRPを消滅させる	—	—	“TRXは、ブロック生成ごとにブロック生成報酬と投票報酬としてTRXが新規発行される一方で、ネットワーク利用時に消費されるリソース (エネルギーや帯域など) への手数料支払いとしてTRXがバーンされる仕組みになる。結果として、全体でも供給がNetで減少している。 ※報酬設計の設計は、2025年6月13日14:00 (SGT) に変更され、以前はブロック生成報酬が16TRX、投票報酬が160TRXだったが、現在はそれぞれ8TRXおよび128TRXとなっている。”
過去3年間の償却状況	—	2022年5月時点では発行済量が119,115,014であり、2025年5月20日時点では120,727,124へ増えた。	2018年5月28日の99,992,075,649から2022年8月30日までに2,756,728が償却され、99,989,318,921となった。	—	—	“ https://tronscan.org/#/data/charts/trx/generated-burned によると、2022年8月25日から2025年5月19日の間に、合計で5,059,188,288TRXが償却”
過去3年間の償却理由	—	過去3年間におけるEthereumのバーンは、手数料の自動騰起によるものであり、ネットワーク利用に応じて発生し、主にL1上の高需要時に集中して行われていた。	—	—	—	“①需給を改善して通貨の価値を高めるため ②USDD (ステーブルコイン) 発行のため”
発行者の行う発行業務に対する監査の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし
監査を実施する者の氏名又は名称	—	—	—	—	—	—
最近時点で行われた監査年月日	—	—	—	—	—	—
最近時点における監査結果	—	—	—	—	—	—
ブロックチェーン技術の利用の有無	あり	あり	あり	あり	あり	あり
ブロックチェーンの形式	パブリック型	パブリック型	パブリック型台帳 (「ブロック」の代わりにその時点での全ての情報を含む「台帳」(スナップショット) が公開される)	パブリック型	パブリック型	パブリック型
ブロックチェーン技術を利用しない場合は、その名称	—	—	—	—	—	—

1 発行状況

取扱暗号資産の概要説明書

概要書更新年月日	2025年6月29日	2025年6月30日	2025年6月3日	2025年6月29日	2025年7月2日	2025年8月27日
	日本語の名称	日本語の名称	日本語の名称	日本語の名称	日本語の名称	日本語の名称
〔 価値 移 転 記 録 台 帳 に 係 る 技 術 〕	利用するブロックチェーン技術以外の技術の内容	—	—	—	—	なし
	価値移転認証の仕組み	・台帳形式 ・価値移転認証を求める暗号データを記録者が解読し、利用者および移転内容の真正性を確認して価値移転記録台帳の記録を確定する。	台帳形式。価値移転認証を求める暗号データを記録者が解読し、利用者および移転内容の真正性を確認して価値移転記録台帳の記録を確定する。	・独自のコンセンサスアルゴリズムに基づく ・3～5秒ごとにバリデータが台帳における新たな取引について投票を行い、80%以上の合意を得た取引が承認されたときのみ、パブリックな台帳に記録される	トランザクションの形式と多重支払いをしないかのチェック、ブロックの形式と最も大きな作業証明(Proof of Work)を持つチェーンを確認している。後続のブロックが連なるに従って、チェーンが覆る確率が低くなっていき覆すのが難しくなる仕組みである。	・台帳形式 ・価値移転認証を求める暗号データを記録者が解読し、利用者および移転内容の真正性を確認して価値移転記録台帳の記録を確定する。
	価値記録公開/非公開の別	公開	公開	公開	公開	公開
	所有者個人データの秘密性の有無	あり	あり	あり	あり	あり
	匿名化の方法	公開鍵と秘密鍵による暗号化	公開鍵と秘密鍵による暗号化	公開鍵と秘密鍵による暗号化	公開鍵と秘密鍵による暗号化	公開鍵と秘密鍵による暗号化
	価値移転ネットワークの信頼性に関する説明	オープンソース・ネットワークの脆弱性に対し、暗号により連鎖する台帳群（ブロックチェーン）を用い、難易度の高い作業証明の累積されたチェーンが選択されることがBitcoinのコンセンサスアルゴリズムによって規定されており、データ改竄の動機を排除し、信頼性を確保している。	オープンネットワークの脆弱性に対し、暗号により連鎖する台帳群（ブロックチェーン）および記録者による多数決をもって移転記録が認証される仕組みを用い、多数の記録者のネットワークへの参加を得ることによって、データ改竄の動機を排除し、信頼性を確保する。	・健全なネットワークを保全する動機を有する認証済法人バリデータによって取引が承認される仕組みを有している ・ネットワークの攻撃に対して自動的に取引手数料が約り上がる仕組みを有しており、攻撃を未然に防ぐことができる	オープンソース・ネットワークの脆弱性に対し、暗号により連鎖する台帳群（ブロックチェーン）を用い、難易度の高い作業証明の累積されたチェーンが選択されることがコンセンサスアルゴリズムによって規定されており、データ改竄の動機を排除し、信頼性を確保している。	オープンネットワークの脆弱性に対し、暗号により連鎖する台帳群（ブロックチェーン）および記録者による多数決をもって移転記録し、その投票により選ばれる。得票数の上位27アカウントがSRとなる。SRは6時間ごとに選挙で選ばれていることから、自浄作用により不安定なSRは排除される仕組みとなっている。このことから、セキュリティ耐性があると考えられる。理論上、27アカウントのSRのうち19が正常に振る舞えば改竄耐性を持つと考えられる。

取扱暗号資産の概要説明書

概要書更新年月日	2025年6月29日	2025年6月30日	2025年6月3日	2025年6月29日	2025年7月2日	2025年8月27日
日本語の名称	ビットコイン	イーサリアム	エックスアールビー	ビットコインキャッシュ	ライトコイン	ترون
記録者の数	変更なし	1,084,959 (2025年6月30日時点のバリデーター数) https://beaconscan.com/	168のバリデーター (検証者) ノード (2025年5月時点) 注: 他のパブリックブロックチェーンにも見えるように、ノードは情報の共有を拒否することも可能であるため、上記の数字はRipple Labs Inc.が把握している部分の数字のみを示している https://livenet.xrpl.org/network/validators	578 https://blockchain.com/bitcoin-cash/nodes	更新時点のマイニング・プールの数は17だが、誰でも自由に記録者になることができたため、総数については特定できない。 また、ハッシュレートが0.3以上のマイニングプールは15である。 参考 https://chainz.cryptoid.info/ltc/#ltxtraction	ステークホルダーから支持された上位27アカウントが記録者 (SR) となる。 https://tronscan.org/#/sr/representatives
記録者の分布状況	2024年4月現在のHashrate上位3カ国は、米国約35%、カザフスタン約18%、ロシア約11% https://worldpopulationreview.com/country-rankings/bitcoin-mining-by-country	記録者の分布状況は、Ethereumに依存する。Ethereumの記録者は世界各国に分散しており、主な分布状況は米国44.48%、ドイツ10.84%、イギリス9.07%であることが確認できる。 https://etherscan.io/nodetracker (2025年5月27日時点)	世界中に分散	不特定	世界中に分布	不特定
記録者の主な属性	誰でも自由に記録者になることができる。	不特定。 記録者は最低32ETHの保有が必要となる。	誰でも自由に記録者になることができるが、信頼されているバリデーターの投票だけが投票プロセスにおいて考慮される	誰でも自由に記録者になることができる。	マイニング・プールが主流	不特定、誰でも一定の要件を満たすことで記録者になることができる。
記録者の修正方法	記録者が合意し、各記録者が保管する台帳の修正を自ら行う。	記録者が合意し、各記録者が保管する台帳の修正を自ら行う。	・取引が一旦記録されると、取引は変更することができない ・承認された送金はキャンセルすることができないので、その送金を無効とするためには反対の取引を別途行う必要がある ・パブリックな台帳ネットワークを保持する動機がある、確認・証明済みの法人がバリデーター (検証者) になっている。 ・そのうち、トップのバリデーター運用のパフォーマンスを示した複数のバリデーターのみがUnique Node List (UNL) という推奨リストに追加され、ネットワークのノードによって参照されるため個々の記録者の信用は必要としない仕組みになっている。	記録者が合意し、各記録者が保管する台帳の修正を自ら行う。	-	記録者が合意し、各記録者が保管する台帳の修正を自ら行う。
記録者の信用力に関する説明	記録者による多数の合意がなければ不正が成立せず、記録者が十分に多数であることによって、個々の記録者の信用力に頼らず、記録保持の仕組みそのものを信用の基礎としている。	記録者による多数の合意がなければ不正が成立せず、記録者が十分に多数であることによって、個々の記録者の信用力に頼らず、記録保持の仕組みそのものを信用の基礎としている。	・取引が一旦記録されると、取引は変更することができない ・承認された送金はキャンセルすることができないので、その送金を無効とするためには反対の取引を別途行う必要がある ・パブリックな台帳ネットワークを保持する動機がある、確認・証明済みの法人がバリデーター (検証者) になっている。 ・そのうち、トップのバリデーター運用のパフォーマンスを示した複数のバリデーターのみがUnique Node List (UNL) という推奨リストに追加され、ネットワークのノードによって参照されるため個々の記録者の信用は必要としない仕組みになっている。	作業証明(Proof of Work)が最も多いチェーンが正しいという合意によって信用が維持されている。	記録者が多数であることによって、個々の記録者の信用に頼らない仕組みを構築しているため、価値喪失の可能性はない	記録者の2/3以上が共同不正をしなければ取引記録の改竄は出来ない仕組みとなっている。記録者は6時間毎に選挙で選ばれることから、万が一不適切な記録者が出現しても自浄作用が機能する仕組みとなっている。
価値移転の管理状況に対する監査の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし
監査を実施する者の氏名又は名称	-	-	-	-	-	-
直近時点で行われた監査年月日	-	-	-	-	-	-
その監査結果	-	-	-	-	-	-
(統括者に関する情報)						
記録者の統括者の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし
統括者の名称	-	-	-	-	-	-
統括者の所在地	-	-	-	-	-	-
統括者の属性	-	-	-	-	-	-
統括者の概要	-	-	-	-	-	-
価値移転ネットワークの脆弱性に関する特記事項	多数の記録者が結託し、あるいは既存の記録者が有する処理能力合計よりも強力な能力を用いることによって、記録台帳を改竄することができる脆弱性があり、51%攻撃とも呼ばれる。	多数の記録者が結託し、あるいは既存の記録者が有する処理能力合計よりも強力な能力を用いることによって、記録台帳を改竄することができる脆弱性があり、51%攻撃とも呼ばれる。	・信頼するバリデーターが意に反して結託した場合、台帳とデータは改ざんされる可能性がある。 ・また、暗号資産の移転等を支えるコミュニティの崩壊等により、暗号資産の移転が不可能となる可能性及びその他の理由等起因し、最悪の場合は、暗号資産の価値がゼロとなる可能性がある。	多数の記録者が結託し、あるいは既存の記録者が有する処理能力合計よりも強力な能力を用いることによって、記録台帳の改竄およびブロックチェーンデータの改竄が可能になる	多数の記録者が結託し、あるいは既存の記録者が有する処理能力合計よりも強力な能力を用いることによって、記録台帳を改竄することができる脆弱性があり、51%攻撃とも呼ばれる。	記録者 (SR) の2/3が結託して共同不正を行うと、記録台帳及びプログラムを改竄されるおそれがある。
保有情報暗号化技術の脆弱性に関する特記事項	-	-	・第三者に秘密鍵を知られた場合には、利用者になりすまして送付指示を行うことができる。 ・Ripple Consensus Ledgerは「Multisign」という機能を有しており、取引を承認する際に複数の秘密鍵を使用することによって、1つの秘密鍵が盗まれても損失を被らないような堅牢なセキュリティ構造を提供している。	第三者に秘密鍵を知られた場合は、利用者になりすまして送付指示を行うことができる。	第三者に秘密鍵を知られた場合には、利用者になりすまして送付指示を行うことができる	なし
発行者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	BTC価格の下落 (対法定通貨) 等に起因したマイナー撤退により、ハッシュパワーが低下し、セキュリティ低下を招く可能性がある。	-	-	-	-	なし
価値移転記録者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	-	-	-	-	-	なし

「価値移転の記録者」

「暗号資産に内在」

取扱暗号資産の概要説明書

概要書更新年月日	2025年6月29日	2025年6月30日	2025年6月3日	2025年6月29日	2025年7月2日	2025年8月27日	
	日本語の名称	ビットコイン	イーサリアム	エクスペアールビー	ビットコインキャッシュ	ライトコイン	トロン
する り ス ク ル	移転の記録が遅延する可能性に関する特記事項	マイニングに参加するマイナーが少ないもしくは全くなくなった場合、移転の記録が遅延もしくは進行しない恐れがある。	処理可能なトランザクションを上回る量の取引がブロックチェーン上で発生した場合に遅延する可能性がある。	信頼されるバリデーターの大多数のネットワーク接続が失われた場合、接続が復活するまで価値移転の記録が遅延する可能性がある また、信頼されるバリデーターが互換性のないソフトウェアのバージョンを使用した場合、大多数のバリデーターが互換性のあるソフトウェアに移行するまで、または、非互換のソフトウェアを使うバリデーターを投票プロセスから除外するという設定をするまでは価値移転の記録が遅延する可能性がある	ブロック生成が遅れることによって記録遅延が生じる。	・一旦、分岐したブロックの一方が否決された場合、否決されたブロックに記録された取引は再び認証を得なければ、次の送金が行えない ・記録者の目に留まらず、未承認データのまま放置される恐れあり	ブロックチェーン上にデプロイされたコントラクトコードに脆弱性があった場合に不正に資産が盗み取られるリスクがある。方がブロックチェーンに分岐が生じた場合は、当該取引はキャンセルされ移転の記録に遅延が生じる可能性がある。また、不安定なSR（記録者）が選ばれた場合、当該記録者を通ずる取引について遅延する可能性がある。ただし、記録者は6時間毎に選挙で選ばれることから、方が不安定な記録者が選ばれたとしても、自海作田が離れ、遅延は解消される。
	プログラムの不具合によるリスク等に関する特記事項	現時点ではプログラムが適正に機能し、所有データの改竄、同一のBitcoinの異なる者との取引、複数の所有者が同一のBitcoinを同時に保有する状況などの不適切な状態に陥ることを排除しているが、未検出のプログラムの脆弱性やプログラム更新などにより新たに生じた脆弱性を利用し、データが改竄され、価値移転の記録が異常な状態に陥る可能性がある。	ブロックチェーン上にデプロイされたコントラクトコードに脆弱性があった場合に不正に資産が盗み取られるリスクがある。	・どのようなソフトウェアにも言えることだが、ソフトウェアの不具合が問題を引き起こす可能性は否定できないが、Ripple Labs Inc.では新しいバージョンがアップデートされる前に入念なQAを行っているが、未検出のプログラムの脆弱性やプログラム更新などにより新たに生じた脆弱性を利用し、データが改竄され、価値移転の記録が異常な状態に陥る可能性がある。	現時点ではプログラムが適正に機能し、所有データの改竄、同一のBitcoin Cashの異なる者との取引、複数の所有者が同一のBitcoin Cashを同時に保有する状況などの不適切な状態に陥ることを排除しているが、未検出のプログラムの脆弱性やプログラム更新などにより新たに生じた脆弱性を利用し、データが改竄され、価値移転の記録が異常な状態に陥る可能性がある。	・現時点ではプログラムが適正に機能し、所有データの改竄、同一のLitecoinの異なる者との取引、複数の所有者が同一のLitecoinを同時に保有する状況などの不適切な状態に陥ることを排除しているが、未検出のプログラムの脆弱性やプログラム更新などにより新たに生じた脆弱性を利用し、データが改竄され、価値移転の記録が異常な状態に陥る可能性がある。	ブロックチェーン上にデプロイされたコントラクトコードに脆弱性があった場合に不正に資産が盗み取られるリスクがある。
	過去に発生したプログラムの不具合の発生状況に関する特記事項	2018年9月に無限増殖バグ等が発見され、Bitcoinが無限に発行できる危険性があったが、既に解消されている。 https://coinpost.jp/?p=47597	Ethereum上のアプリケーション「The DAO」のプログラム（スマートコントラクト）のバグ（脆弱性）を攻撃されて、集まったファンド資金3分の1以上を盗み取られた事例がある。	—	2019年5月15日ハードフォーク後バグ発生 https://cc.minkabu.jp/news/2557	・2016年、Cryptsy交換所（倒産）がハッキングを受け、100,000,000円相当のLTC（300,000 LTC）が盗難に遭った事例がある ・BTCとは異なり、すべてのLTCがウォレットで管理されていたとされる	なし
	非互換性のアップデート（ハードフォーク）の状況	Bitcoinのハードフォークは以下の通り 2017年8月1日 ビットコインキャッシュ（BCH） 2017年10月24日 ビットコインゴールド（BTG） 2017年11月24日 ビットコインダイアモンド（BCD） 2017年12月12日 スーパービットコイン（SBTC） 2017年12月18日 ライトニングビットコイン（LBTC） 2017年12月27日 ビットコインゴッド（GOD） （取得元） https://coinpedia.cc/bitcoin-hard-fork	2016年7月 The DAOの攻撃によって盗まれたDAOを取り戻す Ethereum Classicハードフォーク（注1） 2017年7月に発生した盗難案件をきっかけに、2018年1月に再び分岐しEthereum Zeroが発生 2022年9月一部のETHマイニング団体がEthereum Proof of Workモデルをサポートし続けるため、再び分岐しEthereumPoWとEthereumFairが発生した 2023年4月、2024年3月、2025年5月の大型アップデートではチェーンの分岐は起こらなかった。	—	2018年11月16日 ABC系とSV系の分岐 2020年11月15日 ABC系とBitcoin Cash Node(BCHN)の分岐	—	なし
	今後の非互換性アップデート予定	—	—	—	—	—	なし
	正常な稼働に影響を与えたサイバー攻撃の履歴	—	—	—	—	—	なし

取扱暗号資産の概要説明書

概要書更新年月日	2025年6月29日	2025年6月30日	2025年6月3日	2025年6月29日	2025年7月2日	2025年8月27日	
	日本語の名称	ビットコイン	イーサリアム	エックスアールビー	ビットコインキャッシュ	ライトコイン	トロン
流通状況	価格データの出所	出所：CoinMarketCap URL：https://coinmarketcap.com/ja/currencies/bitcoin/	出所：Etherscan URL:https://etherscan.io/stat/supply	出所：CoinMarketCap URL：https://coinmarketcap.com/coins/	出所：CoinMarketCap URL：https://coinmarketcap.com/coins/	出所：CoinMarketCap URL：https://coinmarketcap.com/coins/	出所：Cryptocurrency Market Capitalizations URL:https://coinmarketcap.com/currencies/tron/
	1取引単位当たり計算単価（ドル基準、例：\$ 1,000,000）	\$108,580.49	\$2,486.46	\$2,210,000	\$501.66	\$83.75	0.2681ドル
	1取引単位当たり計算単価（円基準、例：¥100,000,000）	¥15,658,855.22	¥357,765	¥315.98	¥72,308	¥12,022.08	38.80円
	ドル/円計算レート 2020年1月23日基準	1ドル/144.30円	1ドル/144.30円	1ドル/142.94 円	1ドル/144.30円	1ドル/143.54円	1ドル/144.72円（2025年5月20日）
	四半期取引数量（協会加盟会員会計、現物、単位は百万円）	4,182,107 百万円	707,811 百万円	143,784	—	9,355	
付帯条件・付言	付帯条件	—	—	—	—	—	①TRXの基本的な内容に照らし、利用者取引トランザクションのモニタリングを行うこと。 ②TRXにおける仕様ならびに関係者の状況に照らし、利用者保護に資するリスク管理策を備えること。 ③TRX管理者としてのTRON財団の変化や動向を把握し、利用者へ正確な情報を適時丁寧に提供すること。 ④プロジェクトの動向から、TRXブロックチェーン上のDApps等を把握し、国内での利用が不適切と考えられるものについて、利用者が使うことのできない措置を適宜講ずること。
	付言	—	—	①リップル社が保有しているXRPに定期的に市場で売却している点について、利用者との利益相反の観点で継続的に注視すべきこと。 ②訴訟が行われている実績に照らし、その動向と結果については確認を行い、これに基づく適切な利用者情報提供、利用者保護を図るべきこと。	—	—	—
備考	—	—	注1 旧来のイーサリアムをハードフォークすることにより、2016年6月の自律分散型投資ファンド「The DAO」への攻撃によって盗難されたDAOを抜出した。このHFを支持しなかったマイナーによって存続することとなった旧仕様のイーサリアムはEthereum Classicに改称され、HF側がイーサリアムの名称を引き継いだ。スマートコントラクトの実行プラットフォームとして開発された現在のETCの性格を引き継いでいる。	—	2017年8月Bitcoinのハードフォークにより組成された暗号資産。	—	